

原子力発電所事故等により福島県から避難している児童生徒に対するいじめの状況等の確認に係るフォローアップ結果について（平成29年4月11日現在）

平成29年4月11日  
文部科学省初等中等教育局  
児童生徒課生徒指導室

## 1. はじめに

平成28年12月16日付け文部科学省初等中等教育局長通知「東日本大震災により被災した児童生徒を受け入れる学校の対応について」（28文科初第1234号）に基づき行われた、原子力発電所事故等により福島県から、震災前の居住地とは別の学校で受け入れた児童生徒（福島県において県内の学校から受け入れた者を含む。以下「福島県から避難している児童生徒」という。）に対する平成28年度におけるいじめ（平成27年度以前について把握したものも含む。）の状況等の確認について、フォローアップを行い、結果をとりまとめました。

なお、以下の結果は、上記通知を受けて、昨年12月以降、各学校等が把握した事案・行った対応についてフォローアップを行ったものであるため、全てのいじめの状況が網羅されているとは限りません（各学校等における確認当時には児童生徒からいじめの訴えがなかった事案、確認時以降発生した事案等）。仮に、現在把握されていない事案がある場合、速やかに、学校、教育委員会等又は下記の電話相談窓口に通報・相談していただきますようお願いいたします。学校、教育委員会等において、直ちにいじめから児童生徒を守る対応をとります。

- ・24時間子供SOSダイヤル 0120-0-78310（全国共通ダイヤル）
- ・ふくしま24時間子どもSOS 0120-916-024（福島県教育委員会）

## 2. フォローアップ結果

### （1）平成28年度における福島県から避難している児童生徒に対するいじめ

	国立	公立	私立	計
全認知件数	0	121	8	129
うち東日本大震災又は原子力発電所事故に起因又は関連するもの	0	4	0	4

対象学校種：小学校、中学校、高等学校、義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校  
<参考>

- ・東日本大震災の影響により、福島県から、震災前の居住地とは別の学校で受け入れた児童生徒の数（福島県において県内の学校から受け入れた数を含む。） 11,828人（「東日本大震災により被災した幼児児童生徒の学校における受入れ状況について（平成28年5月1日現在）」より）
- ・福島県から避難している児童生徒1,000人当たりのいじめの認知件数 10.9件
- ・全国の児童生徒1,000人当たりのいじめの認知件数（平成27年度）  
16.5件（文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」）

東日本大震災又は原子力発電所事故に起因又は関連するいじめの概要【4件】

学校種 (被害者)	いじめの行 為の種類	学校等の対 応	事案の概要と現在（平成29年3月時点）の 状況
公立・小学校	冷やかしや からかい、悪 口等	個別面談、保 護者への確 認	仲の良い友人からの言葉によるふざけがあ った。加害児童への指導とともに双方の保護 者に対する説明を行い、現在は、双方仲良く 学校生活を送っている。学校では、注意深い 見守りとケアを継続している。
公立・小学校	冷やかしや からかい、悪 口等	個別面談、保 護者への確 認、アンケ ート調査	友人と震災に関わる話題になり、嫌な思いを した。加害児童への指導と被害児童へのケア を行い、通常の学校生活を送っている。学校 では、注意深い見守りとケアを継続してい る。
公立・中学校	冷やかしや からかい、悪 口等	個別面談、保 護者への確 認、アンケ ート調査、家 庭訪問	震災にかかわる悪口を1回言われた。近くに いた友達が加害者に対して注意をしてくれ た。その後は同じようなことは起こってい ない。学校は、被害生徒及び保護者に対して 継続的な支援を行っており、被害生徒は現在 も毎日元気に登校し、生活している。
公立・中学校	冷やかしや からかい、悪 口等	個別面談、ア ンケート調 査	同学年の男子数人がからかいで「福島原発」 と他の生徒に発言する。その発言を本人が聞 き、発言した生徒らに対し、そのようなこと を言わないでと告げる。本人はその発言を聞 いて嫌な思いをした。学校は保護者に事案を 報告し、加害生徒への指導を実施。被害生徒 には寄り添った対応を繰り返し実施し、平常 通り学校生活を過ごしている。

上記129件のほか、

現在、教育委員会、学校等において事実関係を調査中であるもの：1件

(2) 平成27年度以前における福島県から避難している児童生徒に対するいじめ  
(各学校等が(1)のいじめの確認を行う中で把握したもの)

	国立	公立	私立	計
全認知件数	0	65	5	70
うち東日本大震災又は原子力発電 所事故に起因又は関連するもの	0	8	1	9

対象学校種：小学校、中学校、高等学校、義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校

東日本大震災又は原子力発電事故に起因又は関連するいじめの概要【9件】

学校種 (被害者)	いじめの行 為の種類	学校等の対 応	事案の概要と現在(平成29年3月時点)の 状況
公立・小学校	冷やかしや からかい、悪 口等	個別面談、ア ンケート調 査	平成23年度、福島県から県内の小学校へ入 学した時、「福島へ帰れ」と面と向かって言 われた。その後現在の在籍校に転入学した が、以降は特段、嫌なことをされることはな く、学校は丁寧に見守りを行っており、現在 は通常通り登校している。
公立・中学校	冷やかしや からかい、悪 口等	個別面談	避難当初の小学校低学年の頃、「お前らのせ いで原発が爆発したんだ」と言われたことが ある。嫌な思いをしたが、継続性はなく、す ぐに行為は止んだ。現在、いじめはなく、通 常通り登校している。学校は、本人の様子を 見守っている。
公立・中学校	冷やかしや からかい、悪 口等	個別面談、保 護者への確 認、家庭訪問	避難当初、「放射能がうつるから来ないで」 と言われたり、方言をまねされたりしたこ とがあったが、担任を中心に学校がすぐに対 応したので、短期間で行為は止んだ。友人関 係はうまくいっており、現在まで、嫌なこ とを言われることもなく、通常通り登校し ている。学校は、本人の様子を見守っている。
公立・中学校	冷やかしや からかい、悪 口、仲間はず れ、集団によ る無視等	個別面談、保 護者への確 認	小学校に転入後、同級生男女3~5人から 「放射能がつくから近づくな」、「こっちに 来るな」と言われた。いじめを受けた当時、 当該児童は、保護者にも学校の教員にもこの 事実を伝えていなかった。現在、当該生徒に 対するいじめはなく、生徒は通常の学校生 活を送っている。学校では、注意深く見守 り、必要な心のケアを行っている。

公立・中学校	冷やかしゃからかい、悪口等	個別面談、保護者への確認	本県転入前に避難していた地域の小学校で、福島県から来たことについて嫌なことを言われた。確認時点で、当該生徒に対するいじめはなく、生徒は通常の学校生活を送っていた。当該生徒は本年２月に本県から転出した。
公立・中学校	冷やかしゃからかい、悪口等	個別面談、アンケート調査	避難当初の小学校の在学時に「放射能」と呼ばれた。学校は、呼んだ児童及び保護者を指導するなど対処し、その後再発はなかった。被害児童はその後、特段の問題なく登校している。学校では、注意深く見守り、必要な心のケアを行っている。
公立・中学校	冷やかしゃからかい、悪口等	個別面談	小学校の在学時に、福島に帰れ等と言われた。児童から当時の学級担任に相談し、解決の方向に向かった。中学進学後は、そのような行為はなく、本人からもいじめられているとの訴えはない。
公立・中学校	金品をたかられる。軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたかれたり、蹴られたりする等。	事案発生当時、いじめ防止対策推進法等に則った速やかな対応がとられていなかった。	小学校の在学時に物を壊される、叩かれる、遊興費を要求されるなどのいじめによって不登校となり、重大事態として対処した。現在は、被害生徒をケアし、不登校児童生徒のための施設に通うことができるようになっている。
私立・高等学校	冷やかしゃからかい、悪口、仲間はずれ、集団による無視等	個別面談、保護者への確認、アンケート調査、家庭訪問、ケース会議、カウンセリング	小学校及び中学校時代に、福島県から転校してきたことを理由にいじめが発生した。その後、小学校及び中学校時代のいじめにより、人間不信になり人づきあいが苦手になったことで、高校では原子力発電所事故とは関係のないいじめが発生した。現在は、いじめの行為は止んでいる。

上記７０件のほか、

- ・ 現在、教育委員会、学校等において事実関係を調査中であるもの：４件
- ・ 平成２８年１２月時点で中学校、高校等を卒業している者が過去に受けたいじめの事案：５件
- ・ 調査を行ったものの被害児童生徒を特定できなかったもの：３件